日野原重明記念
「新老人の会」東京 会報
Keep on going!
Vol.7/No.3
2025.7

『恕（ゆる）しのククル』

琉球大学名誉教授　沖縄長寿科学研究センター長
元「新老人の会」沖縄支部世話人代表
日野原重明記念「新老人の会」東京　会員
鈴木　信

終戦の日から間もない昭和二十年八月末。六年生の僕が通っていた静岡の城内東小学校は跡形もなく焼け落ち、運動場はうずたかくなった瓦礫で埋め尽くされていたが、その片隅の空き地に二十人ほどの学童がいた。ほとんどが男の子で薄汚く裸足であったと記憶している。そこに現れたカーキ色の軍服を着た若者に、焼けた後の棒切れで名前を地面に書くように言われた。青空教室であった。六年生担当のその先生は日本陸軍の軍人であったが懇切丁寧で、両親と離れ離れで生活していた僕には特に優しく労わってくれた。先生が、たった一つだけ焼け残ったオルガンを弾いて、皆で「うさぎ追いしかの山」と歌った。このことは、私が生き甲斐を感じて生きる契機となった。

ある日、授業を終えて家に帰る途中、国道一号線を横切ろうとした時であった。国道一号線といえば東京と大阪を結ぶ第一の国道。地方の静岡とはいえ舗装はされていたが、道路には穴がぼこぼこあき、信号も横断歩道も無かった。学校の前を戦闘帽を被った二人の米兵を乗せたジープが走って行った。僕が道路を横切ろうとしたとき、さっきの二人の米兵が僕に走り寄ってきた。僕の数メーター先にジープが停まっていた。「鬼が来た！」僕は殺されると感じて必死に逃げた。道路の脇に延々と続く焼け焦げた瓦礫と残骸が高く積まれた山の陰に隠れていたが、米兵は背も高く足も速く小学生の僕は簡単に見つかってしまった。その時、六月に受けた静岡空襲の体験が蘇り、僕は怖くて震えていた。

「新老人の会」東京の会報誌Vol・7No・2でも述べたが、静岡空襲では、見たこともないような五センチ大位の大きな火玉が雨霰のように降ってきた。僕は逃げようと必死になり、バケツで水をかけている叔母さんを振り切って自宅の前の排水路に飛び込み、小さな橋を次々とくぐって逃げたが、爆撃に追いつかれ焼夷弾がそばに落下。必死になって火の中を更に逃げたが、今度はグラマンによる機銃掃射を受けた。その時、たまたま隣にいた見知らぬおばさんが「入りなさい」と誘ってくれ、布団の中に防空頭巾を被ったまま潜り込み助かったのだ。

先述の米兵は、手の上に何かを乗っけてしつこく迫ってきた。鬼気迫る雰囲気であった。僕はそれを振り切って走りに走って家に帰った。小学四年生からの五年間、両親と離れ横浜から静岡の叔母の家に疎開していた僕は、その日の出来事を叔父と叔母に話した。「それはもったいない事をしたね。それはチューインガムであったに違いない」と叔母が言った。そういえば米兵は口をもぐもぐしていた。ガムを噛んでいたのかもしれなかった。今考えるとあのとき僕は、防空壕で唯一焼け残った一張羅の空色の上着を着ていた。その背中には大きな三日月形のこげ茶色の焼け焦げがあった。米兵はそれを写真に撮りたかったに違いなかった。

沖縄には人を夢中にさせる何かがある。それは人々に生き甲斐をも与えてくれる。それが『恕しのククル』である。

「恕（ゆる）し」は、思いやりの心で罪や過ちを許すこと、相手の思いを測ること。「ククル」は、沖縄語で「心・心情・精神」を表す言葉。日野原先生がいつも言っておられたように、「恕（ゆる）し」によりもたらされる平和は、私たちにも与えられる。

『恕しのククル』それは、私たちの目指すところでもある。

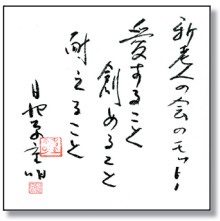
鈴木 信　（すずき まこと）
1958年 慶應義塾医学部卒業
1959年 国立東京第二病院・循環器内科
1965年 慶應義塾大学医学博士取得
1969年 メルボルン大学病院・心臓内科
1976年 琉球大学医学部・医学部教授 地域医療センター長
1999年 琉球大学名誉教授
2000年 沖縄長寿科学研究センター長
2001年 沖縄国際大学総合文化学部教授
2008年「新老人の会」沖縄支部世話人代表
2017年 沖縄ブルーゾーンの会会長
【著 書】『THE OKINAWA PROGRAM』
『百歳の科学』『沖縄健康の生き方』
『健康長寿100歳時代の生き甲斐づくり』　他65冊

報告

正置友子先生講演会

戦前・戦中・戦後の絵本：あの頃、こんな絵本があった
～絵本を通して、歴史に学び、未来を拓く～

2025年4月5日㈯　13～16時　主催：「新老人の会」東京
東京大空襲・戦災資料センター　共催：講演会実行委員会
参加者80名　後援：絵本セラピスト協会



正置友子先生は、ヴィクトリア時代の絵本研究で英国のローハンプトン大学大学院に留学、同大学より博士号を取得されました。帰国後、聖和大学で教鞭をとり、また大阪大学大学院でさらに研究を深めて二つ目の博士号を取得、絵本の研究者として国内外で高い評価を得ています。

今回、絵本セラピストである福井みどりさん（サークル『絵本の会―みどりの庭』主宰者）の協力で講演会が実現しました。また会場は昨年十月の講師である早乙女愛さんのご尽力で、講演会のテーマ「戦前・戦中・戦後の絵本」と深い関わりのある東京大空襲・戦災資料センターとなりました。講演会場にはキンダーブック他多くの資料が展示され、参加者はそれぞれを手に取ることができました。絵本を一冊ずつスライドで映しながらの深い洞察に基づく講演は三時間近くに及びました。すばらしい講義をすべてお伝えできず、概要となりますが、戦争により絵本の立場にも変遷があったことをご理解いただければと思います。

戦前のキンダーブック　一九二六年に幼稚園令が公布され、保育項目に「観察」が追加され、観察絵本としてキンダーブックがフレーベル館より創刊されました。米、草花、乗り物、人形など毎号テーマがあり、幼児が理解できるように絵と平易な文で制作されていました。

戦時下のキンダーブック　満州事変、真珠湾攻撃と戦闘状態に陥ることで、絵本のテーマは戦争に関連する内容となっていきました。一九四二年三月、本のタイトルも「キンダーブック」から「ミクニノコドモ」に改題、一九四四年九月には二十六の絵雑誌が統合され、「日本ノコドモ」となりました。兵隊に志願する若者を増やすため、戦争を賛美し、子どもたちを洗脳する内容となりました。各本の最終頁にある「お母様方へ」では、自分の子どもが志願するよう育てるようにと記載されています。

戦後のキンダーブック　一九四六年八月、「キンダーブック」は復刊し、現在も発刊されています。二〇二七年で百周年となるとのことです。

プランゲ文庫について　一九四五年八月、広島・長崎に原子爆弾が投下され、日本は敗戦となりました。GHQによる占領統治は一九四五年から一九五二年、検閲も一九四九年まで続き、検閲したことが分からないように修正されました。米国メリーランド大学プランゲ文庫には、当時の日本の全国紙や地方紙、報道写真・ポスターや地図、ガリ版刷りの労働組合会報やPTA記録など膨大な資料が保管されており、約千六百冊の絵本もこれに含まれています。戦後の日本を知るうえで大変重要な資料です。戦後を映すABC絵本が数多くプランゲ文庫に含まれ、日本語表記に関する試行錯誤を示しています。

今回の講演会場である東京大空襲・戦災資料センター館長の吉田裕さんは、プランゲ文庫研究の草分けのおひとりです。

「青い目の人形」　一八八八～一九一二年まで日本に滞在したギューリック米国牧師が、一九二七年アメリカ各地から青い目の人形を募り、一万二千体余を日本に送りました。そのお礼として「答礼人形」六十七体をシカゴに送りました。

未来に対する責任　戦前・戦中・戦後の絵本を知ることにより、国家がどの

ように国民を動かそうとしたか、また国民は動いたかを考える機会となりました。スマホやタブレットでの読書やオーディオ（可聴）ブックが普及している一方、絵本の読み聞かせを広めようとしている人々も大勢います。

ここで正置先生は、無害に見える「ただ面白い絵本」や「表面的に楽しい、温かい、癒やしの絵本」が本当に良い本と言えるか、子どもたちから想像力や思考力、歴史的視点や未来への志・希望を奪っていないかを考える責任があると警鐘を鳴らしています。

予想を超える出来事が世界中で多発している今こそ、急いて進めずに考える時間を持つことが必要だと思います。

初心者のためのスマホ講座⑨

～防災の第一歩は、スマホをもっと“使ってみる”こと～

デジタル庁デジタル推進委員
伴　克子（東京会員 福岡在住）

こんにちは、デジタル推進委員の伴　克子です。

スマホでLINEで家族と連絡を取ったり、写真を送ったり、SNSを楽しみ、Zoomにも入れるようになりました。そんな声をお聞きします。次に皆さんにぜひ知っていただきたいのが「スマホでできる防災」です。

地震や台風、大雨など、いつ起きるかわからない自然災害。いざという時に自分を守り、家族と繋がるために、スマホが大変役に立ちます。「普段使っているスマホで、できること」から始めましょう。

たとえば、こんな使い方があります

- 地震や大雨などの速報を受け取る：「Yahoo!防災速報」アプリは、地震・津波・大雨・避難情報をいち早く知らせてくれます。
- 避難所を調べる：「Googleマップ」で、自宅近くの避難所の場所や道順を確認できます。
- 家族に居場所を知らせる：「LINE」で位置情報を送れば、家族も安心です。
- 災害用伝言板を使う：「web171」は、電話が繋がらない時にメッセージを残せるサービスです。
- 懐中電灯として使う：スマホに入っているライト機能は、停電時の強い味方です。

Yahoo!防災速報アプリ

LINEの位置情報の送り方

全てを完璧に覚えなくて大丈夫。大切なのは、「自分のスマホで、これならできそう」と思えることから始めることです。「懐中電灯をつけてみた」「防災速報の通知が届いた」そんな小さな体験の積み重ねが、いざという時の安心に繋がります。

練習してみましょう。

スマホの懐中電灯のつけ方（iPhoneとAndroid）

- iPhoneの場合

画面の右上から下にスーッと指をなぞると「コントロールセンター」が出てきます。その中にある「懐中電灯（ライトのマーク）」をタップすれば、すぐに光ります。

- Androidの場合（機種によって少し違います）

画面の上から下にスワイプすると「通知パネル」が出てきます。その中にある「懐中電灯」または「ライト」のマークをタップすると点灯します。

どちらも、もう一度タップすればライトは消えます。いざという時に備えて、一度試しておくと安心です！

次のチェックリスト、ご家族やお友達と一緒にぜひ実践してください。

✓スマホ防災チェックリスト（まずはここから！）

- □ スマホの懐中電灯をつける練習をした
- □ LINEで位置情報を送る方法を確認した
- □「Yahoo!防災速報」アプリをインストールした
- □ 家族の連絡先をスクリーンショットで保存した
- □ モバイルバッテリーを準備してある

初めての句会

飛鳥　蘭

二〇一八年十一月半ば、当時世話人の関谷真一さんが建築に携われた高尾駒木根庭園で、トライアルとして行われた句会が「初めての句会」に繋がりました。関谷さんは、八王子で武蔵野うどんの交流会をしていらした方ですが、残念なことに病魔に侵され、永眠なさいました。

その後、武蔵境の武蔵野プレイスという公共施設を会場として、この句会が始まりました。当初は、地域貢献という事もあり、会員以外の地域の方々にも場を開いて、賑やかな句会になりましたが、直ぐにコロナ禍となり、集会が難しい状況で、会員中心のメールによる句会に切り替え、続ける事が出来ました。

月一回、第三火曜日、およそ七年になります。この間、事務局を務めてくださっている、太田垣宏子さん、水口緑さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。

会場は東京の西なので、「新老人の会」会員の皆様には通い難いと存じますが、最寄駅からは直ぐなので、ご参加をお待ちいたします。また、欠席投句も受付ています。

〈会員の近詠〉

紅梅を観に白梅の下に立つ　あんず
近寄れば雛の声する浮巣かな　夢子
蛍烏賊ひとつ覚えの酢味噌和　緑
風薫る里は近江のをんな坂　宏子
アトリエの四方の窓より緑さす　蘭

以下、投句をお待ちしております。

○当季雑詠　二句　いつでも可

メール投句　viridia@icloud.com 水口緑まで

葉書投句　〒168-0064杉並区永福4-28-24　飛鳥蘭宛

問合せ先　03-3265-1909

イベント案内

秋の散策は【原爆の図 丸木美術館】へ

9月11日㈭ 第５回の今回は埼玉県東松山市【原爆の図 丸木美術館】へ

『原爆の図』は、広島出身の丸木位里氏が、原子爆弾が投下された直後の広島へ駆けつけ、そこで見た惨状の記憶や被爆体験者の証言をもとに、妻の俊さんと共同制作で描き始め、30年以上の歳月をかけ全15部の『原爆の図』を完成させました。

丸木美術館は、全面改修のため本年9月28日から2027年5月5日まで休館の予定。10月の講演会講師、アーサー・ビナード氏とも深い関わりがある当館へ、ぜひ皆さんと共に訪れたいと企画しました。美術館は、緑豊かな自然に囲まれ、近くには都幾川もあります。静かな場所で、私たちの置かれている状況を思い、平和や「いのち」について語り合えるといいですね。詳細は、同封のチラシをご覧ください。

映画「生きる」上映会のご案内

日　時：2025年7月27日㈰
　　13:00 ～　(開場12:30)
会　場：城西国際大学・東京紀尾井町キャンパス1号棟　地下ホール
参加費：1,000円
主　催：「新老人の会」東京　「絵本の会」

2011年3月11日の東日本大震災で、石巻市立大川小学校の児童の70％に相当する74人と10人の教職員が亡くなりました。「あの日何があったのか」「真実が知りたい」と親たちの強い思いが10年にわたる唯一無二の記録となり、後世に残すべき作品となっています。

「講演とコンサートの集い」のご案内

日時：2025年10月11日㈯
　　13:00 ～ 16:00
会場：ホテル・ルポール麹町
講演：アーサー・ビナード氏
　　（詩人・翻訳家）
「知らなかった、ぼくらの日本語」
コンサート：ヴィオラ・ソロ、
　　ピアノとのデュオ
植村理一氏（ヴィオラ）
松田希美氏（ピアノ）

★講演：多彩な才能を発揮し、さまざまな分野で活躍されているアーサー・ビナード先生をお迎えします。先生は、1967年アメリカミシガン州生まれ、高校生の頃より詩を書きはじめ、ニューヨーク州コルゲート大学で英文学を学び、卒業と同時に来日。日本語でも作詩を開始します。

2001年､第一詩集『釣り上げては』が中原中也賞に選ばれ、『日本語ぽこりぽこり』で講談社エッセイ賞､『ここが家だ　ベンシャーンの第五福竜丸』で日本絵本賞､『さがしています』で講談社出版文化賞を受賞。

また、丸木位里・丸木俊の大連作『原爆の図』をモチーフに独自の物語を創作した紙芝居『ちいさいこえ』を、７年がかりで出版しました。

ラジオの仕事も多く、2021年日本民間放送連盟賞グランプリ受賞。現在、文化放送で毎週月曜日17:30~18:00『アーサー・ビナード　ラジオぽこりぽこり』が放送されています。

さまざまな活動を展開しておられるアーサー先生から、どのようなお話が聴かれるのか、どうぞご期待ください。

★コンサート：植村理一先生のヴィオラ・ソロ、J.S.バッハ無伴奏組曲第３番BWV 1009、そして松田希美氏のピアノとのデュオで、エルガー 愛の挨拶 / ブラームス ソナタOp.120-2第１楽章 / バッハ G線上のアリア、を予定しています。

日野原先生がお元気な頃、よくリサイタルに来てくださったと語る植村先生。心に響くヴィオラの音色と演奏の間のお話を、お楽しみになさってください。

「語りつごう あの日 あの頃」朗読会のご案内

日　時：2025年10月26日㈰
会　場：安与ホール（新宿駅東口から徒歩1分）
お問い合わせ：電話03-5376-8022（小泉）

当会の世話人のひとり小泉靖子さんが主宰して24回目の開催です。戦争を知ってほしい、それだけを念じて、今年は、広島の原爆をテーマに取り上げます。

「新老人の会」東京

2025年（5月現在）会員数168人（144件）
2024年　会員数220人（188件）

会員募集中！

年 会 費

個人・家族会員	5,000円
賛助会員　（一口）	10,000円

編 集 後 記

戦後80年の節目にふさわしい鈴木信先生の巻頭言『恕（ゆる）しのククル』。先生は、出身大学の医局から３年の予定で琉球大学病院に派遣されたのですが、沖縄に惹かれて91歳の今も沖縄で現役医師として活躍しておられます。

正置友子先生の講演会は、３時間に及ぶ学びの多い内容でした。２面の報告記事から、戦争が絵本にも､このような変遷をもたらしていたことを知っていただきたいと思います。

同封のチラシ、９月の「原爆の図・丸木美術館」見学会は、10月の「講演とコンサートの集い」の講師アーサー・ビナード氏が､原爆の図をモチーフに紙芝居『ちいさいこえ』を創作されたことと繋がります。皆様のご参加をお待ちしています。

■発行所　日野原重明記念「新老人の会」東京　〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2 進興ビル４階　電話・FAX：03-3265-1909
Eメール：t.shinrojin@gmail.com　ホームページアカウント：https://shinrojin.com/　■発行人 石清水由紀子　■編集責任者 五百木幸子　■印刷 佐川印刷株式会社